

TOSHIBA

環境報告書 2024



環境スローガン

一人ひとりのまごころで 未来に引き継ぐ すてきな地球

東芝インフラシステムズ株式会社 三重工場

目次(Contents)

I. ごあいさつと三重工場の概要	
●ごあいさつと三重工場の概要	2
●製品紹介	3
II. 環境マネジメント	
●三重工場の環境方針	4
●環境マネジメントシステムと環境保全体制	5
●環境目的と目標	6
III. 持続可能な発展のために	
●環境負荷	7
●環境会計および環境教育	8
●異常事態対応訓練	9
●環境監査および取引先の環境確認	10
IV. 製品（環境開発・調達）での環境配慮	
●E C P（環境調和型製品）	11
●S B T 認定取得と環境調和型製品	11
V. 事業場での環境配慮	
●気候変動への対応、循環経済への対応	12
●化学物質の管理	13
●法令順守	14
●生物多様性保全	15
VI. 社会との共生のために	
●社会貢献・啓発活動	16
●内部・外部コミュニケーション	17
VII. 環境保全活動のあゆみ	18



1 貧困をなくそう

2 飢餓をゼロに

3 すべての人に健康と福祉を

4 質の高い教育をみんなに

5 ジェンダー平等を实現しよう

6 安全な水とトイレを世界中に

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

8 働きがいも経済成長も

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

10 人や国の不平等をなくそう

11 住み続けられるまちづくりを

12 つくる責任 つかう責任

13 気候変動に具体的な対策を

14 海の豊かさを増そう

15 陸の豊かさも守ろう

16 平和と公正をすべての人に

17 パートナーシップで目標を達成しよう

Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）
 SDGsとは2015年に国連が定めた2030年に向けて取り組む世界の社会課題解決に向けた17の目標と169のターゲットです。
[当工場の活動内容を報告書内に上記のアイコンで類別しています。](#)

編集方針
 この環境報告書は、当工場の2023年度環境保全への取組み（一部2024年度を含む）と成果を中心にまとめました。

対象範囲
 この環境報告書は、ISO14001に基づいて一体活動を行う審査登録範囲と同じ「東芝インフラシステムズ株式会社 三重工場」を報告対象とし、工場内の関係・協力会社を含みます。

ごあいさつと三重工場の概要

ごあいさつ

東芝インフラシステムズ（株）三重工場は、三重県の北部に位置し、北東に員弁川を隔て桑名市に、西南は朝明川を隔て四日市市に隣接し、南東は川越町に続き伊勢湾を望む、旧東海道沿いの住宅地に囲まれた立地の中で事業を展開しています。

当社の主力製品であるモータ、変圧器等は社会インフラ設備に欠くことのできない電気機器であり、高い信頼性と長期の寿命が必要条件となっています。さらに最近では人と地球が持続可能であるために、カーボンニュートラルとサーキュラーエコノミーの実現が必要不可欠となりました。2023年度には、効率規格で最高レベルとなる I E 5 を達成する「シンクロナスリラクタンスモータ」の発売を開始しました。また、2024年、日本能率協会が選定する GOOD FACTORY 賞のファクトリーマネジメント賞を産業・社会インフラの事業所として初めて受賞するなど、モノづくりにおいても高い評価をいただいております。

構内に所在する東芝産業機器システム（株）三重事業所を始めとした各会社、及び各社従業員と共に一丸となって環境活動に取り組んでいます。

東芝インフラシステムズ株式会社 三重工場

環境保全責任者

工場長

高本 和弘



三重工場の概要

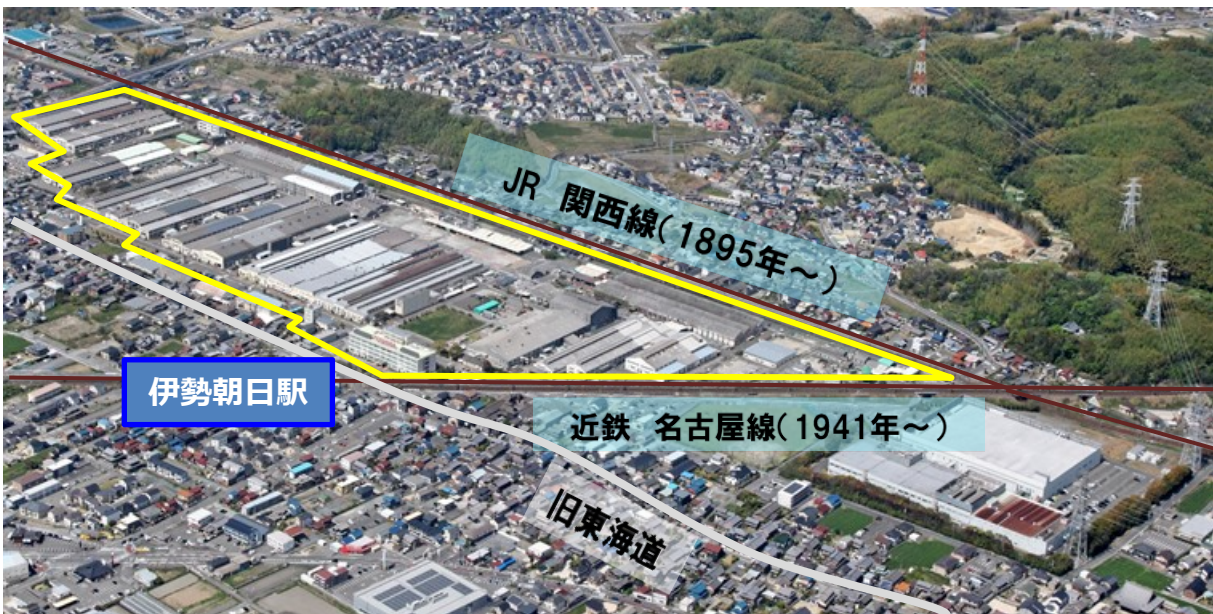
設立：1938年3月

所在地：三重県三重郡朝日町大字縄生2121番地

敷地面積：270,438m²

従業員数：約1,300人（関係・協力会社含む）

《三重工場地区の航空写真》



製品紹介



◇モータ

1世紀を超える歴史と実績を誇る「東芝モートル」は、設計・製造から試験、出荷まで、徹底した品質管理のもとに生産しています。多様化するニーズに対応するため、これまでに培った技術と経験を活かした省エネルギー・高効率化でSDGsの達成に貢献します。

<p>日本国内向け トップランナーモータ</p>	<p>産業用 永久磁石モータ</p>	<p>産業用インバータ</p>
<p>高効率安全増 防爆モータ</p>	<p>シンクロスリラクタンス モータ(SynRM)</p>	

◇配電機器

電気エネルギーを、モータなどの負荷設備へ、安全にしかも確実に送り届けるための機器です。受電から配電の制御まで、あらゆるニーズに応えられる性能と機能で、電力の安定供給と、運転の高度化・省力化・省エネルギーに貢献します。

<p>トップランナー2014 油入変圧器</p>	<p>トップランナー2014 モールド変圧器</p>	<p>鉄道用車両変圧器</p>
<p>スーパー高効率 菜種油入 変圧器</p>	<p>油入変圧器 ~50MVA</p>	<p>モータコントロールセンタ</p>

三重工場の環境方針

三重工場は、東芝グループの一員として、「豊かな価値の創造と地球との共生をめざした環境経営を通じて持続可能な社会の実現に貢献する」との認識に立って、東芝グループ経営理念に基づき、構内関係会社各社と連携して環境保全活動を技術的、経済的に可能な状態で推進します。

東芝インフラシステムズ(株) 三重工場 環 境 方 針

三重工場は、三重県北部の旧東海道沿いに位置し、北東に丘陵地、南西に伊勢湾を望む自然豊かな環境の中、東芝の産業用電気機器事業の拠点として、「人に寄り添い、社会を支える。」をモットーに、敷地内に所在する東芝産業機器システム株式会社三重事業所及び構内常駐会社と共に、省エネ・高効率を主とした変圧器、コントロールセンタ、配電機器、産業用・車載用モータ、産業用インバータ、車載用ジェネレータ等の環境調和型製品の提供や閉鎖性水域である伊勢湾の水質保全などの活動を通じて、人々の安全・安心と豊かな社会を支えています。

そして、東芝グループ理念体系における「人と、地球の、明日のために。」の信念のもと、環境への取組みを経営の最重要課題の一つとして位置付け、豊かな価値の創造と地球との共生を図り、構内で働く全ての者が、持続可能な開発目標であるSDGsの達成に貢献します。

事業と調和させた環境経営を当社グループ一体となって推進します。

- (1)環境パフォーマンスを向上させるための環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。
- (2)組織の環境側面について環境への影響をライフサイクルの視点で評価し、環境目標を設定します。
- (3)環境側面に関する法令、当社が同意したその他の要求事項及び自主基準を遵守します。
- (4)環境負荷の少ない物品や材料を購入するグリーン調達を推進します。
- (5)積極的な情報開示や社会貢献活動を通じて、ステークホルダーとのコミュニケーションを深めます。
- (6)環境教育・啓発活動の継続的な実施により、環境意識の向上に努めます。

持続可能な社会の実現に向けて、環境負荷低減に取り組めます。

1.気候変動への対応

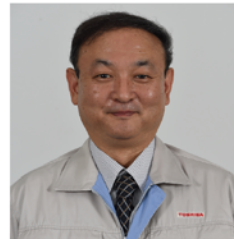
- (1)エネルギーの効率的な利用や、SF6ガスの排出抑制等により、温室効果ガスを削減します。
- (2)社会の温室効果ガス排出抑制に貢献する環境調和型製品・サービスを提供します。
- (3)設計、調達、製造、物流などすべての活動段階において、気候変動への対応に向けた施策に取り組めます。

2.循環経済への対応

- (1)地球資源の有限性を認識し、事業活動、製品・サービスの両面から有効活用します。
- (2)製品の小型・軽量化、長寿命設計による省資源化に取り組めます。
- (3)廃棄物の3R(リデュース、リユース、リサイクル)を推進します。

3.生態系への配慮

- (1)事業活動による生態系への影響を認識し、自然環境や生物多様性の保全に努めます。
- (2)水資源の有効利用と汚染の予防により、地域環境の保全に努めます。
- (3)化学物質の取扱量の管理と排出量削減、環境リスクの低減に取り組めます。



★環境スローガン★

「一人ひとりのまごころで
未来に引き継ぐ すてきな地球」

改定日 2024年6月27日

東芝インフラシステムズ株式会社 三重工場

工場長

南本 和弘

環境担当：TEL 050-3191-1427

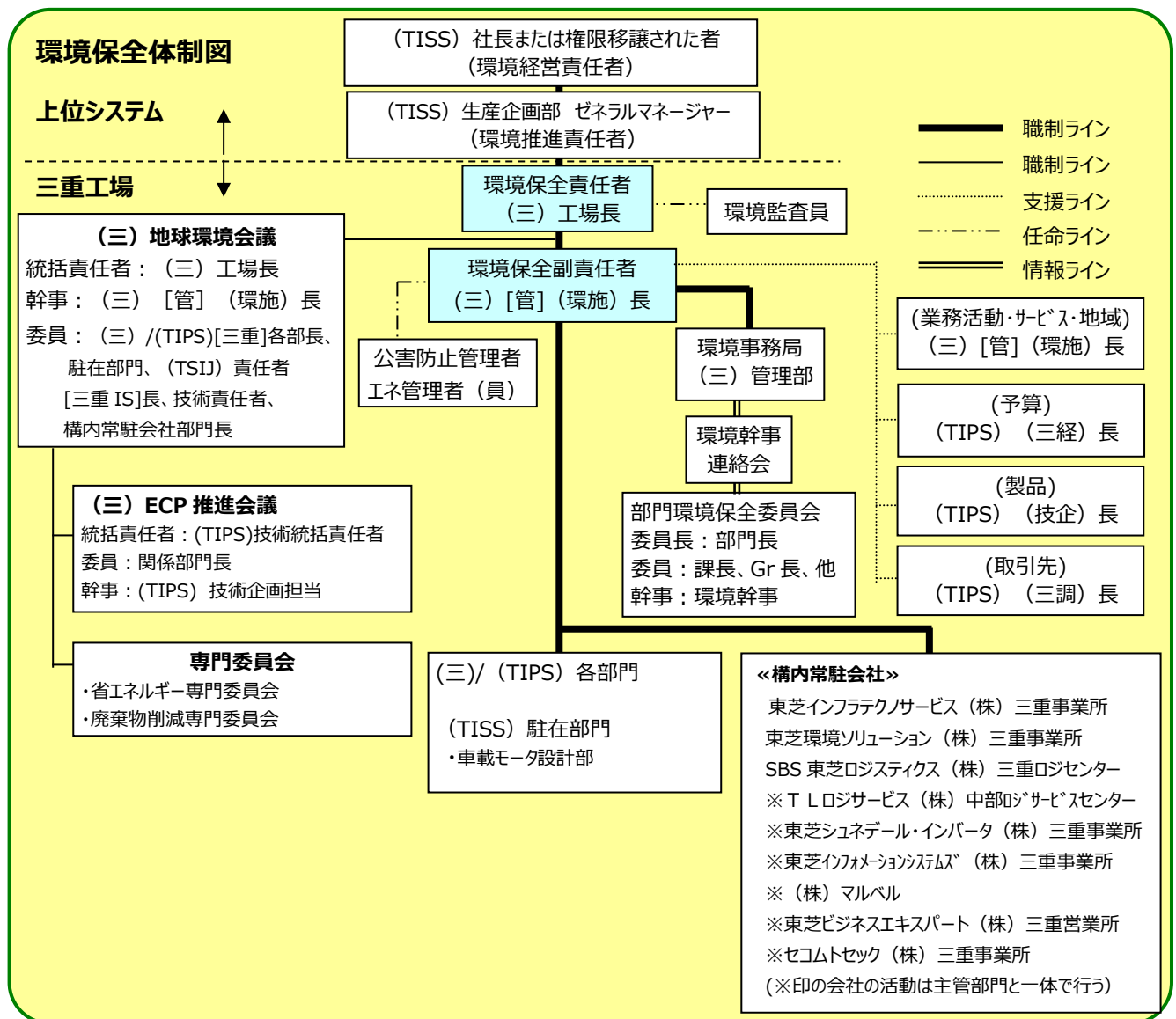
環境マネジメントシステム

三重工場では、1997年1月に国際規格ISO14001を認証取得し、2006年度には上位組織であるカンパニー社との統合認証を行い、2023年度はISO14001の審査（2年次サーベイランス）を受けました。ISO14001に基づくEMS（環境マネジメントシステム）のPDCAサイクル（Plan-Do-Check-Action）により、環境保全活動の継続的な向上を図っています。審査は、外部審査機関（㈱日本環境認証機構）により毎年審査を受け、3年毎に更新しています。



環境保全体制

環境保全活動の継続的な向上を図るため、『三重工場環境保全体制』を構築しています。構内各社一体の環境保全責任者と環境保全副責任者を置くと共に、各部門単位においても部門長を置き職制ラインを軸とした環境保全体制となっております。また、構内常駐会社責任者は工場地球環境委員として会議に参画しております。



備考 (TISS) : 東芝インフラシステムズ株式会社
 (TIPS) : 東芝産業機器システム株式会社

(三) : 東芝インフラシステムズ（株）三重工場
 (TSIJ) : 東芝シュネデール・インバータ株式会社

環境目的と目標

三重工場では、東芝で策定した第7次環境アクションプランを受けて、当工場に該当する管理可能な項目につき環境負荷低減に向けて取り組んでいます。環境方針と三重工場の環境影響を考慮して環境目標を挙げ改善活動を推進しています。

2023年度の環境目標については、全ての項目に対しては目標値を達成しました。

目標に対して ○：100%以上、△：80%以上、×：80%未満

2023年度目標 (第7次環境アクションプランに基づき2019年基準で目標を策定)			年度 目標値	23年度実績	判定	
1. 気候 変動への 対応	①温室効果ガス総排出量の削減	t-CO ₂	11,474	8,758	○	
	②エネルギー起源CO ₂ 排出量原単位の改善	t-CO ₂ /億円	18.2	16.9	○	
	③製品使用時の温室効果ガスの削減貢献	t-CO ₂	1,150,000	1,150,127	○	
2. 循環 経済への 対応	①廃棄物量の抑制 (総発生量-有価物)	t	1,339	1,114	○	
	②廃棄物排出量原単位の改善	t/億円	17.8	14.1	○	
3. 生態 系への配 慮	1) 化学物質 の管理	①化学物質総排出 量原単位の改善	kg/億円	64.2	44.4	○
	2) 水資源の管 理	②水受入量原単位 の改善	m ³ /億円	162	155	○
4. 環境基 盤	1) コミュニ ケーション	①環境教育及び訓 練	%	100	100	○
		②各種会議、環境 行事				
	2) リスク・ コンプライア ンス	①構内遵法確認 ②廃棄物処分業者 遵法確認	%	100	100	○
	3) その他	①取引先巡回 ②各種監査実施	%	100	100	○

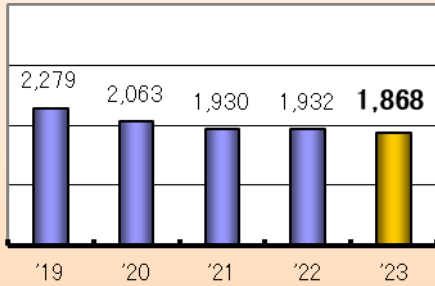
本報告書のデータは構内関係会社分のデータを含みます。

持続可能な発展のために

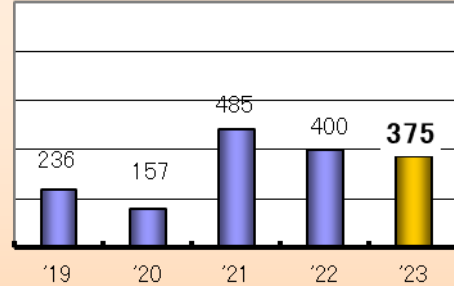
環境負荷

三重工場では、事業活動に伴い多くのエネルギー、用水、原材料、副資材が使用され、環境負荷（環境に与える影響）が発生します。主なものは、工場で消費されるエネルギーや化学物質、消費後に排出されるCO₂や廃棄物があります。これら環境負荷をなるべく小さくする為の様々な施策を行っています。

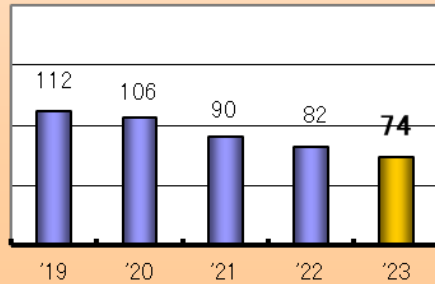
■電気 (万 kWh)



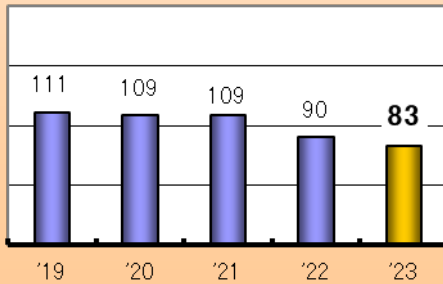
■都市ガス (千 m³)



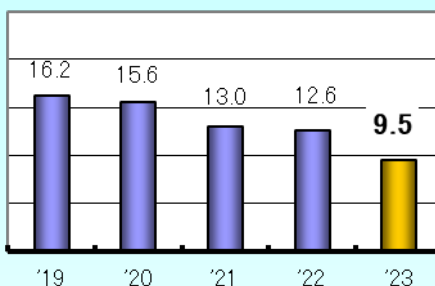
■用水 (千 t) ※1



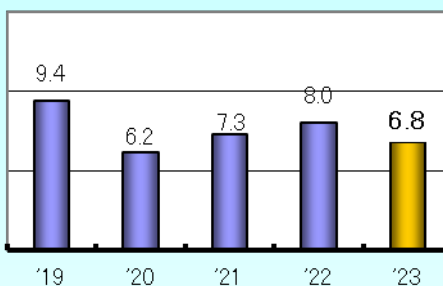
■化学物質 (t) ※2



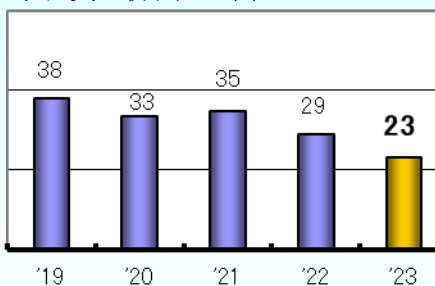
■温室効果ガス (千 t-CO₂)



■廃棄物総排出量 (千 t) ※3



■化学物質の排出量 (t) ※2



※1 用水は地下水と町水の合計です。
 ※2 化学物質は東芝グループ削減対象物質の量です。
 ※3 廃棄物総排出量は有価物を含めた値です。

環境会計

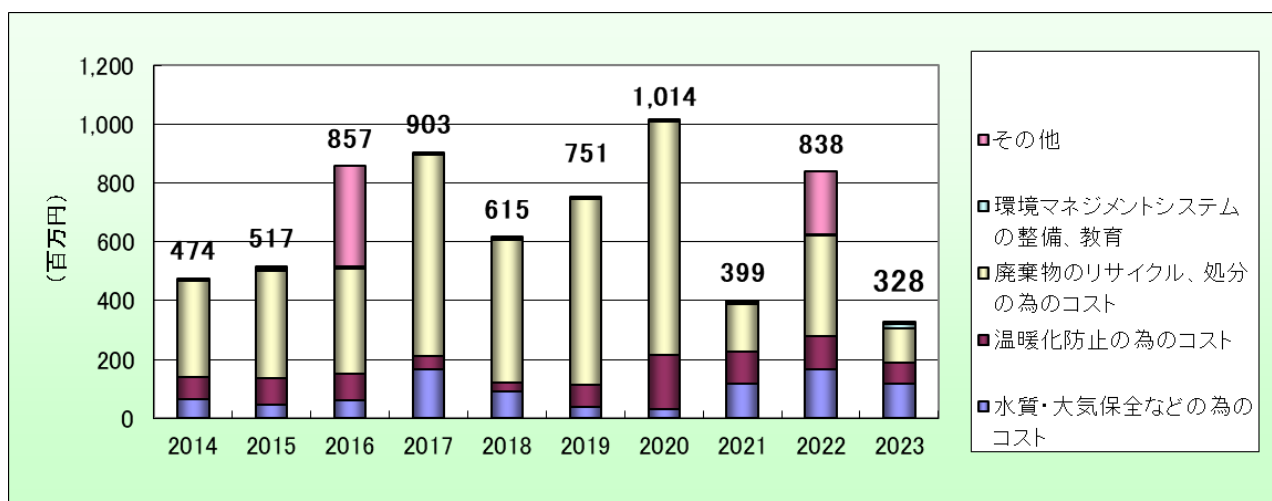
環境会計は、環境保全に関わるコストとその効果を把握することで、環境活動をより効率的に展開することのできる重要な指標と考えています。三重工場が使用している環境会計のコスト分類や算出基準は、環境省環境会計ガイドラインに準拠した東芝の環境会計ガイドラインに基づいています。2023年度のコスト合計は約328百万円（前年度比510百万円減）となりました。

《2023年度 環境会計集計結果》対象期間2023年4月1日～2024年3月31日

●環境保全コスト^{※1}

環境保全を目的とした投資、公害防止や環境調和型製品の開発などの環境に関わる全ての費用を集計

- 投資…PCB 対応設備更新、空調設備、LED 照明などを実施（前年度比101百万円減）
- 費用…廃棄物処理、PCB 汚染物処理、設備償却費等の費用が発生（前年度比410百万円減）



※1 事業活動に起因する環境への負荷の抑制を目的としたコスト及びこれに結びついたコスト。環境保全のための投資額及び費用額。

環境教育



三重工場では、ISO14001環境マネジメントシステムに基づき、環境教育に関する通達を定め、構内で働く全員が教育を受けています。教育は一般者教育と特定業務従事者教育を実施しています。

●一般者教育

東芝グループ全体では、毎年1回、国内外の全従業員を対象に環境e-ラーニング教育を実施しています。地球環境問題や東芝グループの取り組み、ISO14001、環境方針、環境目標などについて従業員の理解を深めることに役立っています。

対象	教育内容	実施頻度
一般従業員教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ISO14001の要求事項 ・国内外の環境動向、関係法令 ・環境方針及び環境目的を達成することの重要性及び環境保全マニュアルの要求事項を実行することの重要性並びに各自の役割と責任 ・現在及び将来予想される事項について各自の業務活動に関し、環境保全活動の効果と改善活動の有益性 等 	1回/年
初級技術者教育	<ul style="list-style-type: none"> ・環境影響を考慮した開発設計、生産技術 	同上
新規採用者教育	<ul style="list-style-type: none"> ・一般従業員教育に準ずる。 	新規採用時

●特定業務従事者教育

環境パフォーマンスに影響を与える業務及び順守義務を満たす組織の能力に影響を与える業務に従事する人財（特定業務従事者）について力量を有する様に教育を行っています。

対象	教育内容	実施頻度
指定業務従業員教育 1. 著しい環境影響を持つ作業従事者 2. 緊急事態に対処する人 3. 環境調和型製品の創出、グリーン調達、環境活動管理業務対応者	<ul style="list-style-type: none"> ・関係法令などに該当する施設の適正な取扱い 及び点検方法 ・関係法令などに該当する施設の異常時の影響 予測結果とその対応方法など ・社内委員会の出席や、担当業務に関する OJT 等 	1回/年
環境影響又は法的及びその他の要求事項を決定し、評価する人	<ul style="list-style-type: none"> ・関連する外部、内部の教育、委員会や工業会等に参加して情報収集していること ・関係法令管理ポイント教育を年に1回以上受講 	都度
遵法アセスメントを評価する人		
法的責務、届出、法的監視等の対応者		
順守評価を実施する人		
環境目標の達成に寄与する人	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境会議出席、環境保全担当者教育 	1回/年
監査員教育	<ul style="list-style-type: none"> ・環境法令などの概要と監査員の職務と責任 	1回/年

異常事態対応訓練



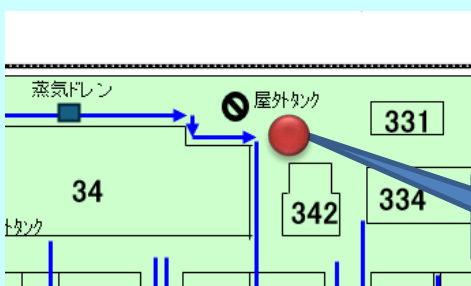
訓練の対象施設・工程は、環境影響評価により環境負荷が大きいと判断した設備のうち、非定常・緊急時判定で有意となった化学物質、油脂類（ガス施設は除く）を取り扱う施設・工程で、且つ、万一事故が発生した場合、排水系等を通じて構外への影響が予想されるものに対して実施しています。日頃の備えを怠らないことにより、環境事故“ゼロ”の継続を目指します。

<訓練内容>

☆場所：#34号館北絶縁油タンクエリア、第2水系

☆想定内容：定時間内の晴れた日にタンクローリーから給油口へ接続している箇所から絶縁油が漏洩。排水溝を経由して第2水系へ流出する事を防止する。

☆レビュー会：訓練後はレビューを行い、手順の見直しなど対応力の向上に向けレベルUPを図っています。



油漏れ想定場所

側溝にシート、土嚢設置

↓

漏洩場所の処置

↓

訓練の講評

環境監査（審査）

三重工場では、定期的に環境保全活動や遵法管理などが適切であるかを、社内及び第三者による社外環境監査（審査）にて確認しています。また、監査（審査）において不適合・観察事項などの指摘があった場合は速やかに是正し、環境保全活動の継続的な向上に向け取り組んでいます。

ISO14001外部機関環境審査 2023年11月

外部審査機関によるISO14001規格に基づく審査で、この審査に合格すると認定事業所として認められます。従来の三重工場単独認証から、上部組織である東芝インフラシステムズ(株)グループ統合認証のサブシステムとして審査を受査しています。

2023年度はISO14001の2年次サーベイランスを受けました。総合評価は東芝インフラシステムズ(株)として“向上”でした。

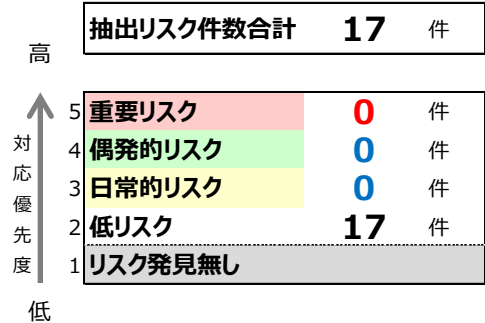


現場審査の様子

環境リスク診断 2024年2月

環境リスク診断は2017年度から東芝インフラシステムズ(株)で実施している監査制度です。現場の環境施設・設備管理、遵法管理におけるリスクの見える化を行い、環境事故やヒヤリの撲滅を目指しています。

2023年度は、6か所の環境施設を診断しました。指摘として低リスク17件があり、これらの診断結果に対して、改善計画を立て実行しています。



取引先の環境確認



産廃処分業者現地確認 2023年4月～2024年1月

工場から排出された廃棄物が適正に処理されているのか、毎年、処理・処分施設の現地確認を実施しています。

2023年度は、21社に対し現地確認（優良認定業者の間接評価を含む）を実施しました。遵法面・管理面について確認した結果、問題はありませんでした。



処分先現地確認

主要取引先巡回 2023年5月～2024年1月

環境負荷が比較的高い主要取引先を対象に巡回指導・支援を実施しています。

2023年度は、環境、安全、調達、事業部の担当者で7社の巡回訪問を行い、会社概況や法令情報等を伝えるとともに作業現場を確認しました。



取引先巡回訪問

製品(研究開発)での環境配慮

ECP (環境調和型製品)



ECP (Environmentally Conscious Products : 環境調和型製品) とは、材料調達・製造・流通・使用・廃棄・リサイクルといった製品ライフサイクルのすべての段階を通して、環境に配慮した製品のことを指します。製品の環境配慮には、「地球温暖化の防止」「資源の有効活用」「化学物質の管理」の3つの要素があります。この3つの要素を盛り込んだ総合的な環境性能を、製品の機種ごとに環境自主基準 (すなわち ECP 基準) として設定します。製品環境アセスメントでは、法的遵守事項の確認だけでなく、すべての開発製品において ECP 基準をクリアすることを確認しています。

◆主な環境調和型製品

トッランナー製品

油入変圧器 2014 S シリーズ	モールド変圧器 TOSMOLD NF シリーズ	プレミアムゴールドモートル	

産業用インバータ製品

多機能・小形インバータ VF-S15	高機能インバータ VF-AS3J	大容量高機能インバータ VF-AS3

SBT 認定取得と環境調和型製品

東芝グループでは、気候変動に関する国際的な認証機関である「SBT (Science Based Targets) イニシアティブ」から、「ネットゼロ目標」の認定を取得しました。今回、2020 年度に取得した内容を更新認定しています。



当社製品は、Scope3 の製品として、長期・短期目標の達成に向けて環境調和型製品を創出します。

・長期目標 (2019 年度比)

バリューチェーン全体 (Scope1、Scope2、Scope3) の温室効果ガス排出量を 2050 年度までにネットゼロとする。

・短期目標 (2019 年度比)

Scope1、Scope2 (自社グループの事業活動による温室効果ガス排出量) の合計を 2030 年度までに 70%削減。
Scope3 (Scope1・2 以外に自社のバリューチェーン (原材料調達・物流・販売・廃棄など) で発生する間接排出量) を 2030 年度までに 70%削減。

事業場での環境配慮

気候変動への対応（省エネルギー活動）

●温室効果ガス削減

東芝グループでは2030年度までに自社グループのバリューチェーン（Scope1・2・3）を通じた温室効果ガス排出量を2019年度比で70%削減（自社グループの事業活動による温室効果ガス排出量を100%削減）し、2050年に向けて社会の温室効果ガス排出量ネットゼロ化に対応する形にバリューチェーン全体で貢献していくことをめざしています。

三重工場では、Scope1・2である事業活動に伴うCO₂排出量削減施策の取り組みとして、省エネ機器（高効率空調器やLED照明機器、トランシーバー変圧器等）を計画的に設置し、継続的な省エネルギーを図っています。



省エネ取り組み事例

建屋照明 LED 化

2013年より天井照明のLED化を継続実施し省エネを図っています。2023年度は13号館と21号館をLED化し、電力使用量を64%削減し、CO₂排出量を41t-CO₂削減しました。2023年度には全体の約79%がLED化されました。



13号館

SF₆ ガスレス試験装置導入

キュービクル型ガス絶縁スイッチギアに収納する接地型計器用変圧器、計器用変流器の試験工程において、SF₆※1) ガスを使用していたが、代替として加圧ドライエアを使用する試験装置を導入し、SF₆ガスレスを実現。CO₂削減量は約3,000tです。



2022年度導入

※1) SF₆(六ふっ化硫黄)は、優れた絶縁性能を持つ気体係数はCO₂の22,800倍

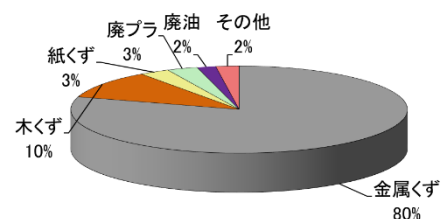
循環経済への対応



東芝グループでは事業活動における廃棄物量の抑制や使用済み製品・部品のリサイクルに取り組むほか、当社グループの注カビジネスであるデジタル技術を活用したソリューションなどを通じた循環経済型ビジネスモデルの構築をめざし、持続可能な社会の実現に貢献します。

三重工場においては、2023年度廃棄物総排出量は6,769tで金属くずが最も多く80%を占めています。また、廃棄物量（有価物を除く）は1,115tで木くずが64%を占めており、継続して腰板やパレットを補修してリユース化を推進しました。また、市販コンテナボックスや専用箱で通い箱化を行い、段ボールの廃棄量削減を実現しました。

■ 廃棄物総排出量



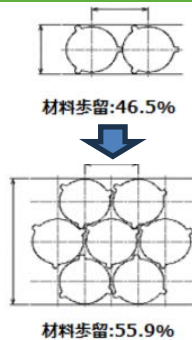
2023年度（6,769t）

3R 取り組み事例

リデュース

製造工程の材料歩留まり改善による省資源化

ハイブリッド型電気自動車用の発電機製造における薄板鉄心加工時のプレス方法を改善することで、材料歩留りが9.4%向上し、省資源化を実現しました。



リユース

木製パレット、腰板のリユース

木製のパレットや変圧器運搬用の腰板を補修して、年間で約65tをリユースして、木屑の発生を抑制しています。



リデュース

納品箱通い箱化により廃棄物削減

納品業者から納入される部品の段ボール梱包を市販コンテナボックスや専用箱で通い箱化を行い、段ボール廃棄を削減しました。



リサイクル

プラスチック素材としてリサイクル

モータのコイル製造で廃棄されるプラスチック製ボビンを破碎してプラスチック素材として、年間で約8tをリサイクルしています。

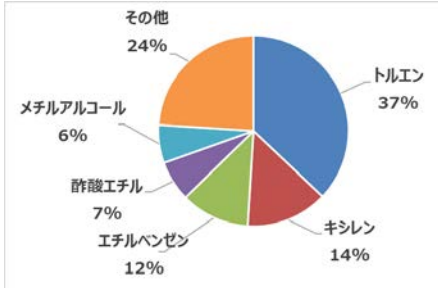


化学物質の管理



東芝グループは、環境に直接及ぼす影響が大きい化学物質を「削減対象物質」とし、排出量の削減と取扱量原単位の低減に努めています。三重工場の2023年度「削減対象物質」の大気への排出量は23tであり、主な化学物質は塗料やワニスに含まれるトルエン、キシレン、エチルベンゼン、酢酸エチル等です。これらの負荷低減対策として、粉体塗装装置の導入やスチレンを使用しないワニスに切り替えて、化学物質の排出量を削減しています。

2023年度排出量 (23 t)



化学物質管理事例

粉体塗装装置導入

変圧器製造ラインに溶剤を使用しない粉体塗料を用いる粉体塗装装置を導入し、トルエン等の大気放出をなくしました。



2022年度導入

スチレンレスワニスに切り替え

産業モータのワニス処置工程にて従来のスチレンワニスからスチレンを使用しないワニスに切り替えて、スチレンの大気放出をなくしました。



2023年度切り替え

(1) 排水・排ガス等の監視・測定

三重工場では、法基準値以上に厳しい自主基準値で大気・水質へ排出される有害物質等を定期的に管理しています。工場からの放流口では、常時 pH、油分、濁度 (SS)、COD等を監視・測定しています。

■ 2023年度排水・排ガス・騒音・振動データ

	項目	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
排水	水素イオン濃度(pH)	5.8~8.6	6.0~8.3	7.0~8.0	連続、月1回
	BOD (mg/ℓ)	130	50	<6	月1回
	COD (mg/ℓ)	130	50	<6	連続、月1回
	SS (mg/ℓ)	130	50	<8	月1回
	窒素 (mg/ℓ)	120	60	<8.1	連続、月1回
	油分 (mg/ℓ)	5	3	<0.5	月1回
	フッ素 (mg/ℓ)	8	4	<0.1	年1回
排ガス	NOx (ppm)	200	100	<50	年2回
	ばいじん (mg/Nm3)	0.1 当面的間(0.25)	0.08	<0.01	年2回
悪臭	スチレン (ppm)	0.4	0.2	<0.04	年1回
	キシレン (ppm)	1	<0.1	<0.1	年1回
騒音	昼 (dB)	対象外	70 (JR側) 65 (民家側)	53~63 50~57	年1回
	夜 (dB)	対象外	60 (JR側) 55 (民家側)	45~58 47~52	年1回
振動	昼 (dB)	対象外	60	<43	年1回
	夜 (dB)	対象外	55	<40	年1回

排ガス：連続焼鈍炉 (LPG、電気使用) のデータ

悪臭、騒音、振動は敷地境界でのデータ(工業専用地域の為、騒音、振動は規制対象外)

(2) 環境事故・指導指摘・苦情の有無

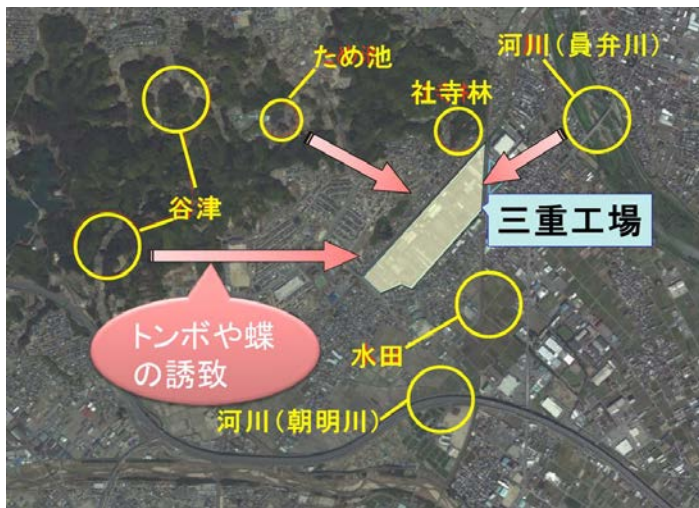
	状況
環境事故発生の有無	なし
工場周辺や地域での環境問題発生の有無	なし
行政からの指導・指摘の有無	なし
近隣住民からの苦情の有無	なし

(3) PCB廃棄物の保管及び処理

PCB廃棄物は廃棄物処理法やPCB特別措置法に基づいて厳重に保管・管理し、処分を行っています。2023年度は、低濃度PCB廃棄物(汚染物) 5.3 tを処理しました。今後もPCB廃棄物の適切な処理を進めていきます。

生物多様性保全

三重工場のある三重県朝日町は、鈴鹿山脈を背にした北勢平野部に位置し、北東に員弁川・丘陵を、西南は丘陵・朝明川に挟まれたデルタ地帯にあり、自然豊かな地域です。三重工場は市街地にかこまれています。水田～谷津～ため池～河川と多様な環境が周囲にあります。周りに移動能力が高いトンボや蝶が沢山いて、工場内の環境を整えば工場内の緑地にも飛来します。この為、工場内にトンボや蝶の生息地や休息地の環境を整える生態系ネットワークの構築を進めています。



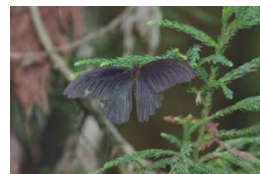
工場周辺



オオアオイトトンボ



チョウトンボ

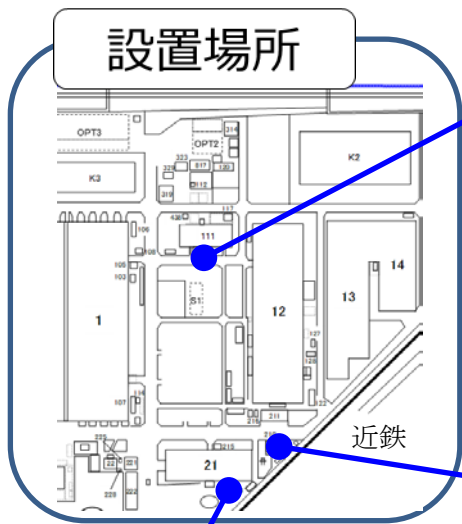


ナガサキアゲハ



ウチワヤンマ

2013年に工場内のひょうたん池（111号館東側）に底生の水生生物が利用しやすいようなタフ舟に水草を植栽したものを配置してビオトープ（生物の生息空間）に整備しました。2016年には、21号館東側にも柑橘系の樹木を植えて環境整備を進めています。また、2023年には、第1水系に二つめのビオトープが完成しました。第1水系の排水処理した水を利用した池での水生生物の飼育をはじめ、柑橘系植栽により事業所やその周辺に生息するアゲハ蝶等の誘致等を行っています。



社会との共生のために

社会貢献・啓発活動



地域社会への貢献活動として、毎年従業員による工場周辺の清掃活動を年2回行っています。また、ペットボトルキャップ収集活動も実施しております。

まごころ募金・リサイクル運動

1995年からリサイクル及びボランティア意識高揚のため、年4回（6月、9月、12月、3月）、従業員が自宅から持ち寄ったアルミ缶の回収と募金を実施し、その収益を朝日町や慈善事業へ寄付しています。

2023年度はコロナ禍で中止していた各門でのアルミ缶回収及び、募金活動を再開しました。



各門での募金・リサイクル運動

地域清掃（クリーンボランティア）活動

1996年から毎年2回（6月、10月）地域の清掃活動を実施しています。

2023年度はコロナ禍で中止していた社員全体での参加を再開しました。延べ467名が参加し、ゴミの回収量は合計で70kgでした。



地域清掃活動

みずほ寮清掃ボランティア活動

1996年から毎年2回（6月、12月）、老人ホーム（みずほ寮）を訪問し、従業員が清掃活動等を行っています。

2023年度はコロナ禍で中止していましたみずほ寮訪問及び清掃活動を再開しました。



みずほ寮清掃活動

ペットボトルキャップ収集活動

2010年7月よりペットボトルキャップ回収により、『世界の子供たちにワクチン』を寄贈する活動に参加しています。これまでに78万個、（ワクチン1271人分）NPO法人へ送付しました。



回収容器

2023年度実績

44,940個

（113kg）

ワクチン：90人分

6月の「環境月間」、10月の「CE（サーキュラーエコノミー）推進月間」、2月の「省エネルギー月間」において、各種行事の開催、環境保全ニュースの発行などを通じて従業員への意識高揚を図っています。

また、工場見学者に対し、各所環境コーナーによる環境活動の紹介や質疑応答を通して積極的に外部とのコミュニケーションを図っています。

環境保全ニュース・環境コーナー

従業員に対する環境情報の提供と周知を目的として、環境月間行事に環境保全ニュースを発行しています。また、多数の従業員やお客様が目にするロビーや正門や南門、食堂に私たちの環境保全活動をお知らせする環境パネル、環境コーナーを設置しています。

環境保全ニュース



環境パネル



環境コーナー



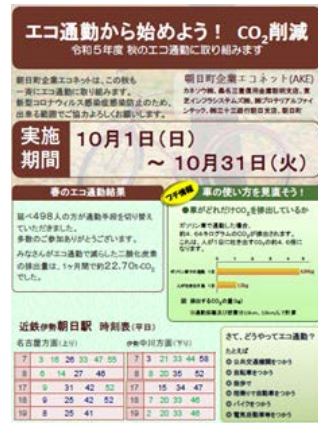
地域に根ざした環境CSR

2009年より朝日町と町内企業が連携し、地域に密着した環境活動を実施しています。例年の取り組みは、**エコ通勤**（5月、10月）、一斉の**地域清掃**（6月、10月）を実施しています。2023年度は、在宅勤務した日もエコ通勤したとみなして実施した結果、CO₂削減効果は3.6 t-CO₂でした。

《参加団体・企業》

- 東芝インフラシステムズ（株） 三重工場、カネソウ（株）、
- 桑名三重信用金庫朝明支店、（株）プロテリアルファインテック、
- （株）三十三銀行朝日支店、朝日町

エコ通勤のポスター



施設開放及び見学会

保育施設（あさひ園）の園児の遠足の間としてグラウンドを提供し、事業内の見学会も実施しています。2023年度は、園児に遠足後、第1水系ビオトープと変圧器を運ぶAGV等を見学してもらいました。

また、朝日町学童（小学5、6年生）による工場見学やモノづくり体験（扇風機製作）等を実施しました。

園児によるビオトープ見学



環境保全活動のあゆみ

年度	会社沿革	環境保全活動
1938	三重工場設立 (小形モータ製造開始)	
1940	(小形変圧器製造開始)	
1989		環境保全マニュアル制定
1993		東芝総合環境監査開始
1994		リサイクルセンター設置
1995		「まごころ募金・リサイクル運動」開始、ボイラー小型分散化
1996		I S O 1 4 0 0 1 認証取得(工場単独) 「クリーンボランティア活動」開始
1997		工場内浄化槽廃止
1999	東芝シュネデール・エレクトリック設立 T M A エレクトリック(株)	工場内焼却炉廃止、塩素系有機溶剤全廃
2000	東芝産業機器製造設立	
2001	東芝シュネデール・インバータ設立	
2002		N I S T (米国国立標準技術研究所) より国内初のモータ試験場として認定
2003	東芝三菱電機産業システム設立 ※TMA エレクトリックから社名変更(中形モータ)	社外H Pへの環境方針・環境調和型製品情報等掲載 中国『公害防止管理者制度』研修団受入(JICA 事業)
2004	東芝シュネデール・エレクトリック移転 (車載モータ製造開始)	第4次総量規制『全窒素・全燐連続測定監視装置』設置(第1, 2水系)
2005		「まごころ募金とリサイクルボランティア」が東芝のC S R大会にて第1回「社会貢献賞」を受賞
2006		I S O 1 4 0 0 1 カンパニー統合認証 廃棄物ゼロエミッション(埋立率0.5%以下)達成
2007		工場内ユニットヒータ(熱風ボイラー)全廃
2008	東芝三菱電機産業システム移転	陶磁器・碍子、掃きゴミ・砥石等のリサイクル化開始(直接最終処分ゼロ化)
2009		朝日町企業エコネットの活動開始 廃棄物電子マニフェスト化開始
2010		エコキャップ収集活動開始 放流口に『油膜検知器』設置(第1, 2水系)
2011	東芝シュネデール・インバータ名古屋事務所設立(設計・開発部門移転)	構内外灯のL E D化開始
2012	(車載インバータ製造開始)	「東芝 Gr150 万本の森づくり」森林整備活動開始 P C B 廃棄物の処理開始
2013	東芝産業機器システムと東芝産業機器製造との統合	# 2 1 号館屋上に太陽光発電機設備設置 生物多様性保全活動開始
2014		第3回みえ環境大賞受賞
2015		モータ製造工程リレイアウト(浸透防止対策実施)
2016		土壌汚染対策工事实施(#155号館南側) 危険物保管庫(PCB保管庫)の竣工
2017	東芝インフラシステムズ設立	飲料水の上水化開始
2018		(TISS)『微量P C B お客様相談窓口』業務開始
2019	東芝産業機器システムが東芝菟野電機を吸収合併	P C B 機器(安定器等)の構内建屋再点検
2020	東芝産業機器システムが東芝メンテサービスを吸収合併	ボイラーのガス化(灯油→都市ガス) フォークリフトの全数電動化
2021		屋外危険物貯蔵所竣工、第1水系凝集沈殿槽撤去
2022		粉体塗装装置稼働、SF6ガスレス装置導入 土壌汚染対策工事实施(第8駐車場)
2023		第1水系ピオトープ整備



写真は

(表紙) ビオトープとそこに訪れたトンボとアゲハ蝶

(裏面) 防災訓練後に緑地で記念撮影

東芝インフラシステムズ株式会社

三重工場

管理部 環境施設担当

〒510-8521

三重県三重郡朝日町大字縄生 2121 番地

TEL : 059-376-6001

FAX : 059-376-6109

本報告書の内容や、三重工場の環境保全活動に関する
ご意見、ご質問などは上記担当までご連絡ください。

2024年8月 発行